



# 平和新聞 東京版

2020年2月25日 東京版第95号

1950年12月16日 第三種郵便物認可（日本平和委員会）

東京版発行 東京平和委員会

〒170-0005 豊島区南大塚2-33-10東京労働会館5階

TEL03-5927-1485 Fax03-5927-1487

## 横田 地下水汚染が深刻

横田基地の環境汚染問題を考える2・10緊急院内集会

報告 岸本正人

「有機フッ素化合物（PFOA）」が問題になったのは、沖縄県嘉手納基地で泡消火剤の大量漏出事故があり、県民が飲料水になっている川に流れ込んで汚染されていることが報道されてからです。

東京都はこの報道を受け横田基地周辺でモニタリングしていた井戸水を調査し、米国基準（1リットルあたり70ng〔ナノグラム〕）の19倍の濃度を検出していました。これを公表しませんでした。これを朝日新聞が東京都に情報開示請求を行い、1月6日の朝刊で報道しました。東京都は米軍に対して基地内の汚染状況の開示を求めましたが、米軍はいまだに回答していません。

有機フッ素化合物漏出問題を、ジャーナリストのジョン・ミッシェルさん（沖縄タイムス特約通信員）が、米国での情報開示請求で得た資料を基に取材し記事に

しました。

米軍の環境破壊問題を学習するために、2月10日に「横田基地の環境汚染問題を考える2・10緊急院内集会」を開催しました。集会では、「在日米軍基地と水質汚染について」と題して、ジョン・ミッシェルさんに講演をして頂きました。

「有機フッ素化合物（PFOA）」とはどんな化学物質なのか解説し、米軍基地内の泡消火剤に使われていることを明らかにしました。次に、人体には、幼児と成長期の子供の発達障害、癌の発生リスクの増加、高コレステロールと高血圧症の増加など、米ミシガン大学モット小児病院の報告を例に挙げ報告しました。

米本土では、こうした健康被害を調査するために、連邦政府が軍に対し基地の調査を指示し、国と地方自治体が河川、血液及び捕獲動物の調査も行っています。そして2016年にPFOAとPFOS（合計1兆分の1）とする基準を定めています。米

保健省は2018年にさらに厳しいPFOS：7ppt・PFOA：11pptという値を推奨しています。

日本ではこの泡消火剤が1950年ごろから使用され、これまで漏出事故や消火訓練で放出されてきました。ミッシェルさんは横田基地でも消火剤の漏出が米軍の資料でも明らかであり、日本政府にも報告している。消火訓練も日常的に行われ泡消火剤が垂れ流しになり、地下や土壌なども汚染され危険な状況だと指摘しています。

また、米本土や在韓米軍では米軍基地内の環境調査をしているのに、日本では日米地位協定を楯に拒否しています。ミッシェルさんは、危険な有害物質を野放ししている日本政府の対策の遅れが問題だと指摘しています。

緊急集会の最後に以下の行動を呼びかけました。

- ① 私たちの街の地下水、水道水の汚染の実態調査を自治体に要請し汚染状況マップを作りましょう。
- ② 政府・東京都による米軍基地内の汚染の実態調査と住民の健康調査を行うこ

とを求めています。③ 在韓米軍基地の汚染や沖縄の米軍基地汚染などとたたかう住民運動や団体と連携し交流を広げて行きましょう。

⑤ 自衛隊基地や駐屯地でもPFOAを含む泡消火剤が使用されています。地下水の調査を求めて行きましょう。⑥ 米軍基地内の環境調査をできないようにしている日米地位協定の抜本的改定を求めていきます。

## 日米地位協定問題シンポジウムへの参加を

■ 主催：「戦争させない! 9条壊すな 総がかり行動実行委員会」

シンポジウムでは、日米地位協定問題に取り組んでいる研究者、ジャーナリスト、弁護士による問題提起と、野党国会議員による発言、参加者との質疑などを通して改定に向けた課題を深めます。

このシンポジウムは、2018年7月の全国知事会による「米軍基地負担に関する提言」を契機に広がっている、日米地位協定抜本改定への機運の高まりを受けて、日米地位協定問題を政治課題に押し上げていく取り組みです。

多くのみなさんの参加を呼びかけます。

■ 日時 3月17日(火)午後2時～5時

■ 会場 衆議院議員第2議員会館 多目的会議室

◇あいさつ：総がかり行動実行委員会から 勝島一博さん、小田川義和さん

◇シンポジスト：前泊博盛さん(沖縄国際大学)、吉田敏浩さん(ジャーナリスト)、寺崎昭義さん(弁護士)

◇あいさつ・発言：野党各党代表 ◇コーディネーター：高野孟さん

# オスプレイ配備を求める院内集会

1月31日、オスプレイ配備撤回を求める集会在衆院会館で行われました。

はじめに、《横田基地とオスプレイ問題》および《木更津へのオスプレイ暫定配備をめぐる問題》が報告されました。

その後、運動交流が行われ、習志野や相模原、埼玉、長野、船橋、御殿場、日野など各地からオスプレイ訓練の実態が示されました。

《日々、住宅の上を低空飛行し、夜間無灯火飛行訓練などが行われており、住民の生活を脅かしている》

《実態をリアルにつかむこと》《訓練を許すことは、侵略戦争に加担していくこと》

《訓練を許すことは、侵略戦争に加担していくこと》

《訓練を許すことは、侵略戦争に加担していくこと》

荻野孝一

## 「建国記念の日」を考えるつどい開催

文京平和委員会発

2月11日、亀戸文化センターで第54回《「建国記念の日」を考えるつどい》が同日い実行委員会の主催・東京平和委員会後援で開催されました。

今回のテーマは「異常な「令和」フィーバーを考える」。昨年の「令和」フィーバー現象をどう考えるかを問い、あわせてこれは安倍政権の姿勢と不可分であることから、その長期にわたる政権を支える要因はどこにあるかも探ろうとするものでした。会場は50名満席となりました。

天皇交替を政権浮揚に利用する安倍晋三  
講師の弁護士・澤藤統一



郎さんは、まず、喧騒状態にあった代替わりの意味から説明。そもそも元号・改元とは、天皇が時を支配するという呪術的権威の表象である。しかも安倍晋三は、国政・行政に次いで時代と天皇までも私物化し、天皇の交替を政権浮揚に利用してきた。「臣民」丸出しの愚行が、国民のウケ狙いで行われたことがまず問題である。

残念ながら少なからぬ国民とメディアがそれを許している。こうした改元の意図を許している現状に警鐘を鳴らしました。

長期にわたる安倍政権を支えるもの 若者の動向  
後半は文京平和委員会の川田正美さんが、標題の課題を取り上げました。いわゆる「負け組」には政治的無力感・無関心が、支持政党なし、投票棄権をもたらした、結果的に自民党が浮上しているとの報道資料を紹介。若者が生活現状を変え

るための政治に期待がもてない「距離感」があること、その現状を自ら変えようとの向上心をどう育ませるか、私たちに課せられていくのではないか、と結びました。

◇3月1日 3・1ビキニデー集会  
3日 都平代表理事会  
6〜8日 沖縄連帯行動  
環境汚染問題県民集会  
15日 横田基地座り込み行動  
17日 地位協定シンポジウム  
主催：総がかり行動 衆議院第2 14・00〜

17日 都平常任理事会  
20日 原水爆禁止世界大会  
主催：東京原水協  
20〜22日 戦争やめて！第6回新宿平和のための戦争展 10:30〜19:00（最終日17時まで）  
新宿文化センター  
21日・講演：阿部百合子（終戦前夜の爆撃を受けた）  
早乙女勝元（こどもころの大空襲があった）

◇4月7日 都平代表理事会  
10日 麻布米軍ヘリ基地反対集会 都立青山公園 18:30〜  
19日 横田基地座り込み行動  
21日 都平常任理事会  
◇6月6日 東京平和委員会 第69回定期総会 東京労働会館地下会議室

## これからの予定

東京平和委員会の前身「東京平和会議」1956年発行「しおり」から、主な記事を紹介します。

平和のねがい  
一、私たちは人類の生存と繁栄のために軍備の縮小と原水爆の禁止をのぞみます。

一、私たちは平和憲法をまもり、どこの国とも仲よくして生活をゆたかにし健康な文化をそだてるようにつとめます。

一、私たちは国と国とのどんな問題も話しあい解決することをのぞみます。

一、私たちは思想や立場はどうであろうと、平和のためならどんな個人や団体とも力をあわせませぬ。

一、私たちは日本が、どんな外国の軍隊もないあかるい民主的な国になることをのぞみます。

目的  
この会は平和を愛好する東京都民の諸運動を推進し、都内各区、多摩地区の平和組織、各種団体や個人と連絡協議し戦争をふせぎ、平和を守る事を目的とします。

## 東京平和委員会史料から

事業  
目的を達するため、つぎの事業を行います。

一、機関紙『平和通信』（週刊）その他のパンフ発行。  
一、首都交歓世界一各国の首都や最大都市と、平和のための意見、資料、代表を交換する運動。

一、講演会や研究会を開いたり、講師のあつせん。  
一、各種の展覧会や映画、音楽、幻灯などの集会を開いたり、そのための資料、資料の製作と貸出し。

一、日本平和委員会の機関紙『平和新聞』の取扱とその他の事業の取次ぎ。  
一、その他、平和に役立つ事業。

議長 宮崎竜介  
創立 昭和二六年（一九五一年）八月十日  
（ゆかりの歌人の歌二首）  
これをみよ全世界一人の私ごとの死にはあらぬを  
（久保山さんの死に）  
柳原白蓮

残されて亡き見呼ぶ声地にみりてり国をいよいよほろぼすか軍備

2